

なぜ、私たちは不安になるのでしょうか。

不安は「先が見えないこと」から生まれます。未来が不確定で、いま自分が何をすべきかがわからないから、不安が募るのです。

災害や疫病が起これば、どんな人でも多かれ少なかれ、不安になります。

しかし、実はお金（生活費・事業費）の目処が立てば、多くの場合不安は解消されます。お金の余裕＝心の余裕。

何より、お金があれば考える余裕が生まれます。

だから、いのちばんに家計をマネジメントしましょう。

落ち着いて、知的に、行動するのです。

収入が途絶えた、解雇された、売上げがゼロになった……。

現状がどんなにひどい状態でも、正しい数字を机の上に乗せ、目に見える状態にすると、かならず光が見えてきます。やるべき「次の行動」がわかってきます。

目の前の現実に向き合い、いまやるべきことを考え、実行に移す。

その積み重ねで、困難を乗り越え、未来をつくることができます。

マネジメントの父、ドラッカーはこう言っています。

「未来を予言しようとすると罫にはまる。おこなうべきことは、現在あるものをマネジメントすることである。そして将来ありうべきものや、あるべきものをみずから創造するよう働くことである」

* 『変革の哲学』（P・F・ドラッカー著 上田惇生編訳 ダイアモンド社）

これから、家計を管理するあなたに、ピンチを切り抜ける術すべを授けます。

本書の前半は、直近3カ月を生き抜くための、「手を動かしてやるべき作業」を書きました。

3カ月という時間は、当面のパニックや非常事態が去るにじゅうぶんな時間であると、歴史が教えています。

恐慌や戦争、疫病といった災いは、いつかかならず終わるときがきます。いつ終わるかはだれも知りませんが、かならず終わります。